

一年組	番
名前	

*例にならって文法的に説明せよ。(文法的意味・品詞・基本形・活用形)

例	心よせに聞きければ、	過去	の助動詞	「けり」	已然形
①	つひに命もなくてやみにしかば、	完了	の助動詞	「ぬ」	連用形
②	送りに来つる人々、これより皆帰りぬ。	完了	の助動詞	「ぬ」	終止形
③	あはれ知らむ人に見せばや。	存続・完了	の助動詞	「り」	未然形
④	多くの人殺してける心ぞかし。	完了	の助動詞	「つ」	連用形
⑤	かばらなれば飛び降るとも降りなむ。	強意	の助動詞	「ぬ」	未然形

*例にならって文法的に説明せよ。(品詞・活用の種類・基本形・活用形)

例	心よせに聞きけり。	動詞	カ行四段活用	「聞く」	連用形
⑥	装束もたぎことなむ、ものにも似ぬ。	動詞	ナ行上二段	活用「似る」	未然形
⑦	世の中にたえて桜のなかりせば	形容詞	ク	活用「なし」	連用形

* () に適語を入れて、現代語訳を完成させよ。

⑧	黒き雲にはかに出で来ぬ。 風吹きぬべし。	黒い雲が急に () 出て来た	() 。	風も () きつと吹くだろう	() 。
⑨	八重律茂れる宿のさびしきに 人こそ見えね秋は来にけり	幾重にも葺むべしが残つて行く宿は、たなき荒れ果て寂しいのに 人は訪ねてなげけれど	() 秋は来たことだなあ	() 。	() 。
⑩	その深にかきほたいとおもしろく咲きたり。	その深にかきほたがとてもうつく	() 咲いている	() 。	() 。

春季集中学習会 助動詞復習テスト② る・らる・す・さす・しむ＋「る」・「れ」の識別

一年	組	番	名前
----	---	---	----

*例にならって文法的に説明せよ。(文法的意味・品詞・基本形・活用形)

例	心よせに聞 <u>き</u> ければ、	過去	の助動詞	「 <u>け</u> り	」	已然	形
①	擧げ、舎人が寝たる足を狐に食は <u>る</u> 。	受身	の助動詞	「 <u>る</u>	」	終止	形
②	悲しくて、人知れずうち泣かれ <u>ぬ</u> 。	自発	の助動詞	「 <u>る</u>	」	連用	形
③	新大納言、さつと立たれ <u>け</u> り。	尊敬	の助動詞	「 <u>る</u>	」	連用	形
④	人を苦しめ、法を犯さ <u>し</u> めて、	使役	の助動詞	「 <u>し</u> む	」	連用	形
⑤	あつまれる <u>人</u> ども、一度に「は」と笑ひたり。	存続・完了	の助動詞	「 <u>り</u>	」	連体	形

*例にならって文法的に説明せよ。(品詞・活用の種類・基本形・活用形)

例	心よせに聞 <u>き</u> けり。	動詞	カ行四段活用	「 <u>聞</u> く	」	連用	形
⑥	男はた寝 <u>ら</u> れざりければ、	動詞	ナ行下二段	活用「 <u>寝</u>	」	未然	形
⑦	いと思ひの外なる人の言 <u>へ</u> れば、	動詞	ハ行四段	活用「 <u>言</u> ふ	」	暴	倉形

* () に適語を入れて、現代語訳を完成させよ。

⑧	新院のおりあさせ給ひての春、 詠ませ給ひけるとかや。	新院が退位なさった春に (お詠みになった (とかいうことだよ。
⑨	卯月つひたち、詠 <u>め</u> る歌、	陰暦四月一日に(詠んだ (歌は、
⑩	悲しくて、人知れずうち泣かれ <u>ぬ</u> 。	悲しくて、人知れず(鼻と泣いてしまった・泣きにはいらなかった (。

春季集中学習会 助動詞復習テスト③ む・むず・らむ・けむ・べし・じ・まし

一年 組 番
名前

*例にならって文法的に説明せよ。(文法的意味・品詞・基本形・活用形)

例	心よせに聞きければ、	過去	の助動詞	「けり」	已然形
①	何のたのしびかあらむ。(たのしび…楽しむ)	推量	の助動詞	「む」	連体形
②	子泣くらむ。	現在推量	の助動詞	「らむ」	終止形
③	人のたやすく通ふまじからむ所に、	婉曲	の助動詞	「む」	連体形
④	いかばかりか哀しかりけむ。	過去推量	の助動詞	「けむ」	連体形
⑤	さる所へまからむずるも、(まからむ)	婉曲	の助動詞	「むず」	連体形

*例にならって文法的に説明せよ。(品詞・活用の種類・基本形・活用形)

例	心よせに聞きけり。	動詞	カ行四段活用	「聞く」	連用形
⑥	身をたすけむとすれば、	動詞	カ行下二段	活用「たすく」	未然形
⑦	むべ山風をあらしといふらむ	動詞	ハ行四段	活用「いふ」	終止形

* () に適語を入れて、現代語訳を完成させよ。

⑧	勝つべきいくさに負くること よもあらじ。	勝つ(はずの) (いくさに負けることはまさか(ないだろう))。
⑨	こころといふもののなきにやあらむ。	心というものが(ないのだろうか) ()。
⑩	その人ならば苦しがるまじ。 入れ申せ。	その人ならば(差し障りがないだろう) ()。 邸内に入れ申し上げなさい。

一年 組	番 名前
------	------

*例にならって文法的に説明せよ。(文法的意味・品詞・基本形・活用形)

例	心よせに聞きければ、	過去	の助動詞	「けり」	已然形
①	袈裟 <small>けさ</small> 見てはく、「うるはしき皮なめり。」	推定	の助動詞	「めり」	終止形
②	鏡に色、形あらましかば、うつらざらまし。	反実仮想	の助動詞	「まし」	未然形
③	長押 <small>ながし</small> の下に人々伏していらへすなり。 (いらへ…返事)	推定	の助動詞	「なり」	終止形
④	あに人臣の礼たらんや。	断定	の助動詞	「たり」	未然形
⑤	もの食はずは、生くべからず。	可能	の助動詞	「べし」	未然形
⑥	蟻のごとく集まりて、東西に急ぎ、南北に走る人、	比況	の助動詞	「ごとし」	連用形
⑦	物も言はぬにやあらむ。	断定	の助動詞	「なり」	連用形

* () に適語を入れて、現代語訳を完成させよ。

⑧	あひ見ずは 恋しきこともなからまし。	(あの人と)	実際に会わなかったならば	恋しいことも	(なかつただろうに)
⑨	物も言はぬにやあらむ。	物も	(言わないのだろうか)	()	()
⑩	冬枯れのけしきこそ、秋には さをさ劣るまじけれ。	冬枯れの様子は、	秋には	ほとんど	(劣らないだろう)